

# 蛭ヶ岳山荘通信 第65号

発行日 平成28年7月1日  
発行者 北丹沢山岳センター  
事務局 神奈川県相模原市緑区小瀬1545-1  
TEL042-687-4011  
FAX042-687-3980

日本の百名山「蛭ヶ岳」も風評被害には困っています

昔の名前の薬師岳に変更して欲しい

蛭ヶ岳の名前の起こりは、大山の修験者像によって仏教のしやな仏に擬えて「るび岳」となり、「ひる岳」になったと言ひ伝えられています。別名「薬師岳」もいわれます。今日では「ヒル岳」はヒルが多くいるので「ひるがたけ」と呼ばれているとか。残念ながら蛭ヶ岳には昔も今も温度や湿度のせいいか「ヒル」はいまません。名は体を表す、と云われますので誤解が多く、山ビルを連想させる為にもいつか夏の時期は訪れる人がかなり減少しております。これから誤解を解くためにも、地名をぜひ昔の呼び名でもある「薬師岳」と変更してもらおうべく関係先へ正式に提案したいと思います。



蛭ヶ岳山荘オーナー 杉本 憲昭

関東大震災とその翌年に

発生した丹沢地震

1924年に発生した丹沢地震では、丹沢山塊の山を崩し谷を埋め尽くし、神の川青根の長者舎52戸を埋め尽くした。

最近の新聞報道によれば、首都圏での地震の発生する確率は30年以内と言われています。もし首都圏で地震が起こり、続いて丹沢山塊の山に関東大震災の時と同等規模の地震が及んできたなら、一体この地はどうなってしまうのでしょうか。蛭ヶ岳は生き残れるのでしょうか。

ハコネヒメボタルは平成27年には0匹 果たして今年はどうだろうか

蛭ヶ岳山頂には例年ハコネヒメボタルが7月中旬～下旬にかけて舞うのが見られましたが、今年は果たしてどうだろうか。昔は檜洞丸から蛭ヶ岳より姫次・焼山に至る山々でよく見かけたと言われています。このヒメボタルは山頂などのスズタケの裏側に生息する小さい巻貝に産みつけられて育つもので、大きさも普通より半分程度の小さなホタルです。今年も蛭ヶ岳山頂では毎日観測を行い、目撃情報はインターネットのホームページ上で発信します。

京浜地域の亜硫酸ガスの大気によるものか

蛭ヶ岳山荘南側（ユージン側）のすべての樹木が枯れてしまった

蛭ヶ岳山頂南側の山肌の大木がすべて大気ガスで枯れてしまった。残る山頂付近の巨木も枯れ、大雨や雪でボロボロと枯木の破片が落ちてきて人命にも危険を及ぼしかねない状態である。蛭ヶ岳山荘へ登山者より危険だから除去して欲しいと多くの方から要望が寄せられています。この大木の立枯れはまず最初にその横に植生していたスズタケが減少し、勿論シカの被害もあつたかも知れないが、平成10年の時点、今から18年前には10数本を残しほぼ全滅したのである。新たな提起は蛭ヶ岳全域の大規模な

植林の計画を立案しボランティア活動を計画してもよいのではないかと提案がありました。ぜひこの壮大なる計画を実行すべく、改めて山の日の発足に伴い提案したいものです。



季節が一ヶ月も早く巡り野山の花もひと月早く咲き自然サイクルはどうなっているのか

今年5月の初めより丹沢山塊は花の情報が多く寄せられたが、まず山つづじが咲き、続いて東国みつばつじが咲き、そしてそのあとシロヤシオツツジといった今までのパターンではなく先にシロヤシオツツジが咲き、6月初旬から東国みつばつじが咲くなどと野山の異変が起こっています。今年の花は大いに当り、来年の開花のサイクルが少し心配です。



編集後記

平成28年度も既に半数の歳月が過ぎました。日本を始め世界の気象変動も予想がつかないといった状態です。この激動期に暮らす私たちはこれを超えてゆく勇氣と知恵が必要です。みなさまのご健勝を祈っております。 杉本憲昭